

探 巢 (ヘボ追い (トバシ))

極、稀ではあるが、このような管巢初期の巣に出会えると、もう、居ても経ってもいられない。頭の中は、もう、蜂追い(ヘボ追い)でいっぱいだ・・・当然、チマチマした仕事など構ってられない。Yの家の『ウメモドキ』『紫式部』『赤ドウダン』等の庭木の花が咲き出すと、もう、『ヘボ追い』シーズン幕開けである・・・気候にも依るが、大体、6/15~20 近辺である。が、この頃、進んでいるコロニーでも働き蜂が、精々、15~20匹程度・・・従って、餌を吊るしても、余程、条件が良くなければ子蜂は付かない。

でも気持ちは、ヘボ、ヘボヘボ・・・古希を迎える爺でもルンルン気分になる・・・家になど居る訳がない・・・5月に仕入れた赤魚*を冷凍庫から引っ張り出し、30~40個ほどの輪切りにし、針金に刺し、新聞紙に包む。なお、赤魚を輪切りにする時、切る鋏でスパッと切る。切り口がザコ付いてはならない。子蜂が齧った齧り口と見誤らない為だ。もう、YのPajeroには『ヘボ追い』の道具一式が載っている。道具一式とは、スパイクの付いた軽い長靴、皮手袋(藪の中を駆けずり回る手袋、飛ばす時に使う指先の無い軽い手袋)、紙縫り**・鋏・マーキング用色粉***・吹き付けのフィッツ子****・ムシ刺されの薬、老眼鏡が入ったポシェット、それに防護服・ドライバー・剪定鋏・移植ゴテ等が入ったバッグ等である。勿論、上さんが作ってくれた弁当と凍らせた缶ビール、それに餌は忘れない・・・これは、出発前の点検項目になっている。

先ず、手始めに餌を仕掛けるのは4月、女王蜂を撒いた近傍である。20~30mおきに広範囲に、30~40個の餌を吊るす・・・餌を吊るす時のポイントは、先ず、終日、日陰である事、開けた場所の地上 1~1.5m位の闊葉樹の枝に吊るす。吊るす際、餌を包んで



きた新聞紙を8つ切り位にして餌の近くに搔ける。これは餌の目安と同時に、餌に染み付いた赤魚の匂いを活用する為だ。最初に嗅ぎ付けるのは新聞紙の魚汁の方だから。

餌を吊るすのに小1時間掛る。餌を吊るし終わると、逆廻りしながら、直ぐ、点検に入る。

このような早い時期でも調子がいいと何れかの餌に子蜂が来ている事がある。

この時期、餌に子蜂が付けばもう見つけたも同然だ。この頃の子蜂は巣の近くで餌取りをする事が多いから見付け易い。初めて見る子蜂には感激する。正直、一人でやってもニヤッと笑顔になる。子蜂を見ると、暫く、馴れない所為か目がチラつく。感激の瞬間である。仕掛けた餌に、1/30~40でも付けば上々だ・・・これを構っていると、その内に他の餌に来ている事が多い・・・こうして、用意万端、準備が完了すると、愈々、ヘボ追い：トバシに入る。その前に、ヘボに軽くマーキング：色付けをする。



(注)：*、**、***、****これ等に関しては、ヘボ追いのノウハウの塊なので、この後、詳述する。

< 尺取虫方式のへぼ追ひ >

マーキング(色付け)は、餌に複数のへぼが付いた時の識別の為だ・・・数匹も付くとどのへぼがどちらに飛ぶか判らなくなるからだ。従って、へぼ追ひの効率を上げる為にへぼに色別の背番号を付け、特定化してやる。

Yの場合、年間通して一人でへぼ追ひを遣るので、殆ど走らずに『尺取虫方式』で歩いてへぼ追ひをする。例えば、餌場から、先ず、へぼを飛ばす。略、99紙繕り付き肉団子肉団子を持ったへぼは、一端、木の葉や枝、幹に停まり、肉団子を運び易いように丸く繕つくろい直す。それから飛行に入る。場合に拠よって、紙繕りの糸を切り落とそうと食



い切り出す事もある。この時は、手に移し直し、糸を回して肉団子を抱かせ替える。焦る気持ちを抑え、飛ばずにジッと紙繕りの行方を見ている。40~50mは追隨出来るだろう。見えなくなった場所：景色・木の位置等を覚え込む。2回目は、紙繕りに肉団子を付け、色付けしたへぼの飛来を待つ・・・6~7月なら4~5分もすると帰って来るだろう・・・これに紙繕り付きの肉団子を抱かせる。抱かせる場合、肉団子に楊枝を軽く指し、へぼの後側から口元へ静かに移して行くと自分で餌を噛み切ったと思い込み、直ぐ、囃おどりの肉団子に付く。付いたら、糸道を齧かじらせ、へぼに脅おどしを掛けないように先程見つけた場所まで歩いて運ぶ。へぼちゃんは、非常に記憶力がいいので、自分の飛行コースを覚えているから、見失った場所で放し、飛ばしてやる。要領は初回と同じだ・・・其処から、また、飛ばずに、何処まで飛ぶのかジーーーーっと見ている。

巣があれば、『軍』の場合、一端、高く舞い上がり、略、真下に落ち込む。落ち込んだ所が巣の在り処あり処かという事になる・・・慣れれば、下手な蜂狂でも、4~5回繰り返せば巣の在り処を見付けられるだろう。これが、極楽蜻蛉流『尺取虫方式』である。紙繕りを見詰て飛ぶ蜂狂が多いが、これは怪我の元!!!



Yのように飛ばなくても、一寸した不注意で、昨年、足を盗られ、転び、腰の骨を3本も骨折をした・・・へぼ追ひは、歩きに限る・・・

一般に、6~7月は、巣が小さい事もあり、また、働き蜂こばち：子蜂(女王様が育て上げた働き蜂の事で、餌が充分でない為、働き蜂が、小さいのでこう呼ぶ)が娑婆しやば慣れしていない為、神経質で、余り、遠くまで出稼ぎに出掛けない。従って、巣の在り処は、近い事が多い。経験的に、50m以内にある。飛んでも100m位であろう・・・秋口になるとそうは行かない。働き蜂の飛翔能力ひしょうも上がり、且、近場では餌が十分確保出来ない為、遠くまで出稼ぎに出る。従って、1km位飛ぶへぼちゃんが居る。働き蜂に、このような飛翔の大きな変化が見られる。

(写真)：一人でへぼ追ひをしていると中々いいシーンが撮れない。これ等はシングル・ハンドで撮影したものである。

多くの蜂狂がへぼちゃんに憧れる最大のポイントは、探巢(へぼ追い)ではなからうか？
少なくとも、Vはへぼ追いに最大の魅力を感じる・・・娑婆に蜂狂はゴチャマンと居るが、
目利きも居れば、単なるへぼ好きなヤボ(下手糞)も居る。この分かれ目は、へぼ追いの
ノウハウが有るか否かと考えて良からう・・・これから、このノウハウをお披露目したい。

< 識別の色付け*** >

餌に複数のへぼが付くと、これが多方面に飛ぶ事が多い。この場合、総てをカラ
かって居ると虻蜂取らずになる。所が、背中に色付け(背番号)して識別する事で様子は
一変する。既に述べた通り。

では、この識別の物体を何ですか？ 色々な方法があるが、
先ず、Vの方法から・・・。

子蜂が付き、安定的に餌を運び始めたら、自分の好みの色を決め(例えば赤)、スト
ローをビニール袋の着色粉に差し込み、軽くチョン・チョンと突付くとストローの
先に着色粉が入る。ストローの反対側を口に咥え、子蜂の背中にソーッと近づき、
プーッと吹けば、赤い粉は瞬時に小蜂の背中に付着する。一寸驚き、逃げる場合も
あるが、直ぐ餌に戻ってくる。全然、平気のへいちゃんは何食わぬ顔して、赤魚を齧
っているへぼも居る。こうして、子蜂にマーキングが出来る。ただ、マーキングで
子蜂が来なくなる事も稀にあるので、吹き付けは驚かせないようにする事が肝心だ。

(着色粉の作り方)

この発明者(特許権所有者?)は、松本スガレの会・会長小林靖彦・宮島・五味さん等である。
色々と試行錯誤の末、へぼに、全く、危害の無いチョークの粉を見つけ出した・・・

原 料 : チョーク(赤、青、黄、茶、それに白)を文房具屋で買う。

捏ねる容器 : 乳鉢

作り方 :

乳鉢に、例えば、赤いチョークを入れ、乳棒で突付いて潰す。大きな塊が無くなる迄突
付く。大体潰れたら乳棒をグルグル回し、粉になる迄搗り潰す。

これで赤い粉が出来た。以下同様にしてそれぞれの粉を作る。

シーズンに入ると5色では足りないので、中間色も作っておくと良い。

緑 : 青と黄の粉を50:50の比で袋に入れ、振ると出来上がり。

紫 : 赤と青

橙 : 赤と黄

その他、白も適当に混ぜるとその他の色が出来
る。この辺の作業は小・中学校時代の図画工
作の授業を思い出し、適当に混ぜてやると10
色位出来る。面白いよ！・・・

但し、トバしている内に、色褪せてくるので、
補給吹付けしてやらねばならないかも？・・・



色識別に別の方式もある。東白川の蜂狂は水性着色ペン『posca』を使っている。

これも少々馴れないとへぼちゃんを驚かす事になるが、此方の方はハッキリ見えていい。

惜しむらくは、何本もポシェットに入れておく

と嵩張る事だ・・・お気に入り品を、色々試してみるといい・・・



< 目印：紙縫り** >

へぼ追いで次に大事な点は、肉団子に付ける目印：紙縫りだ・・・

子供の頃は、専ら、お袋の居ない留守に真綿を盗み出し、これを、鼻糞を穿ったような汚い手で擦って、使った。真綿は、子供でも上手い具合に糸を長く引き出せるので都合が良かった。が、枝や木の葉に引っ掛かり易かった。

最近、前述の小林会長・宮島・五味さん等が買い物袋の紙縫りを使うようになり、この方法が広まった。これは、真綿の欠点をクリヤーしており、中々の優れものだ・・・この紙縫りのポイント（味噌）は、プラスチック・シートと糸にある。

茲に、この作り方を紹介しておきたい。参考になれば・・・なお、糸は、yがサンザ手芸店を駆けずり回り、#100と言う極細のポリエステル糸を特注するようになり、これが特殊の手芸店に出回るようになった事を付け加えておきたい。

この紙縫りは、色々な蜂狂達が使っている紙縫りと比較して、別格の優れもので、これを使い出すと答えられない・・・

(トバシの目印：紙縫りの作り方)

この目印の発案者は前述の小林靖彦会長・宮島・五味さん等である。糸の工夫は極楽蜻蛉：y。この特徴は、軽くて、細長い為、余程密な針葉樹でない限り、へぼは、何処でもスーッと摩り抜ける優れものである。特許権を侵害して御免。蜂狂仲間なので許してネエ・・・

- 1). クシャクシャでない**買い物袋**を用意する。(店で新品を**買う**といい)
- 2). 綺麗なダンボールの上に皺が出ないように、ガムテープで止める。
- 3). 切れるカッターで、**定規**を当て、幅5mm位にして、一揆に切る。
カッターの角度に注意し、切り口が**ピラ**ないように！！！！ピラが出ると次工程で切れてしまう。
- 4). 何本も切り落とす。
- 5). 次に、切り落としたビニールの両端を持ち、エイッと引っ張る。
約3倍に伸びる。これが軽くする為の味噌である。
- 6). 引き伸ばしたビニールを**沢山**作る。
- 7). このビニールに100デニールの糸を**瘤結び**にして**縛り**付ける。
- 8). 糸8~10cm、ビニール12~15cm位にして、切り落とす。



この作業は時間が掛かるのでトバシの現場では無理かも知れない。

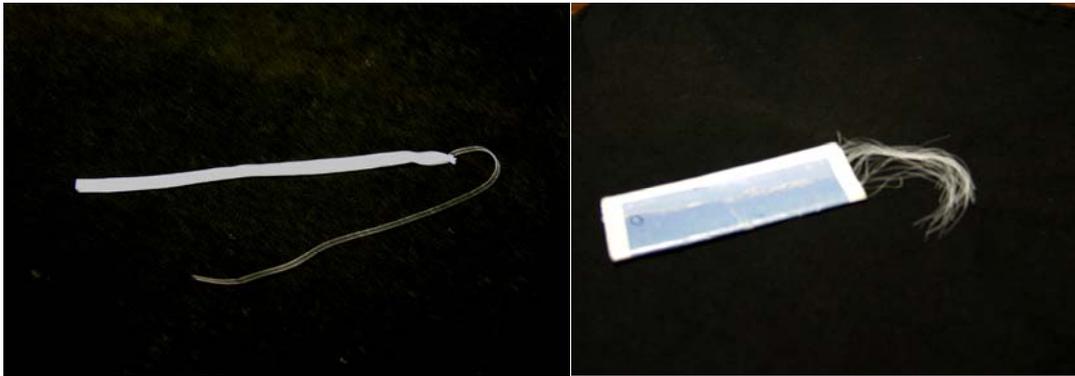
シーズン・オフ（冬場）の仕事として沢山作っておくと良い。yは、冬場に5,000本位、来るべきシーズンの為に作っておく。

< 紙縫りの糸 >

昨今は、ビニール製品が出回っているので、これを細く切り、絹の細いミシン糸に結び付け、ヘボ追いをしてきた。細いミシン糸といっても、未だ未だ、かなり太く、ヘボは糸を非常に気にしていた。ヘボは糸が太いと、葉や木に止まってばかりいる。或る時、これを見た小林靖彦会長が、「これを使ってみろ！」と言って、ポリエチレンの細いミシン糸をくれた。この細いミシン糸は非常に強く、ヘボが木に止まって、喰い切り出しても簡単には喰い千切れぬ、大変な優れものだった。

Yは、前述の尺取虫方式（リレー式）のヘボ追いをするので、喰い千切られない、この糸は大変ありがたかった。何故なら、今迄の糸では、ヘボを運ぶ途中で喰い切られる事が屢^{しばしば}あったからである・・・

反面、糸が強靱^{きょうじん}過ぎ『巢に帰ったヘボが中々帰って来ない』と言う欠点もあった。最近では、ミシン糸を特注し、より細いポリエチレンの糸に切り替え、更なる効果を上げている。その糸は **Fujix KING POLYESTER THRED #100 color白**である。



トバシの目印：紙縫り

トバシ目印のセット（30～50本入れる）



優れもの、ポリエステル糸（FUJIX KING POLYESTER THRED #100 5000m color：白）

ざっと、ハード面のポイントはこうだ。ハード面のノウハウは、基本中の基本であるが、これが完璧でも上手いくとは限らない。これにソフトの裏付けをしなければならぬ・・・そのソフトとは？

まず、餌の鮮度*。赤魚^{あかうお}にしても生烏賊^{なまいか}にしても鮮度の悪い物は話しにならない・・・Yは、赤魚を買う場合、生簀^{いけす}から上げたてのピチピチしている物を2000匹ほど買い、10匹ずつ、ビニール袋に入れ、急冷凍する。臭い出した赤魚はヘボの付が悪い。

赤魚にしても生鳥賊にしても腐りかけた物は臭う。その上、餌のもちが悪い・・・

以前、鶏のササミ・手羽等^{てばね}でやった事があったが、いい所2時間もてば良い・・・直ぐ、臭い出す。そうすると働き蜂が酔ったようにフラフラになり、餌を運ばなくなる。

肉団子の大きさは、マッチ棒の先位。働き蜂の飛翔能力に忘れて肉団子を大きくしたり、小さくしたり臨機応変に対応する。その上、肉団子は丸く作る事・・・丸く作る秘訣は、切り取った肉片を^{こぶおす}瘤結びに、そしてクロスするように十文字に縛ると真ん丸くなる。肉団子が丸くないと飛びが極端に悪い・・・また、糸道^{いとみち}は短め：1~1.2cm。糸道が長いとへボちゃんが舞い難くなる。これはポイントだ。

次に紙縫りの長さだが、一般的に短い方が早く飛んでくれる。が、蜂狂サイドにする^{する}と見難くなる。逆に、長いと見易いが、へボちゃんは飛び難くなり、停まって、糸を齧り出す。この兼ね合いが難しい・・・へボの個々の習性を掴むと肉団子の大きさと紙縫りの長さが瞬間的に判るようになる。一流の蜂狂と呼ばれるようになるには、このノウハウを身に付けたいものである。

尺取虫方式については、もう、既に述べたが、これは#100系と併せて、基本中の基本だろうか・・・飛び方の把握も身に付けたい・・・高く飛ぶ働き蜂、低く飛ぶ働き蜂、また、巣の方向に真っ直ぐ飛ぶ働き蜂、曲がる御仁・・・色々のタイプがあるが、急に高く舞い上がったら要注意！！巣はその近辺にある。『シダクロスズメバチ(軍)』は帰巢時、巣の近傍^{きんぼう}で高く舞い上がる習性がある。逆に、巣から飛び立つ時は、一端、高く舞い上がり、そこから種類の飛行態勢を取る。紹介した紙縫りの良い所は、この帰巢時、紙縫りがヒラヒラ落ちこちるように見えるから遠くからでも追従し易い・・・



Yは、この見方が、長年の経験で身についているので、このヒラヒラを見るともうゲット

したと考えている。大勢の勢子等とやる時は、『ほれー、行ったぞー』とか、『そこ、そこに落ったぞー!!!』なんて・・・、また、勢子は、『ハーーーイ、現着・・・』とか『メックたぞー!!!』なんて鬼の首を取ったかのように騒ぎ立てる・・・

いずれにしても見付けた時は気持ちの良いものだ・・・年寄りでも嬉しいものである。

Yは、先ず、見付けると独りでにニヤニヤしながら、カンカンに冷えた缶ビールでへボちゃんに乾杯する事にしている。この時ほど美味しいビールはない・・・立て続けに2



巣なんて事もあ
る。このような日
は何をか況^{いわん}や、
蜂狂冥利^{ひた}に浸る
瞬間である・・・



上から、肉団子を啜えさせる瞬間、肉団子に移した所、紙縫りの糸を食い切ろうとしている所